

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
請求実務演習 IV Medical coding IV		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	演習		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
介護保険実務論、介護保険請求実務				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医療事務論、医療秘書、ドクターズクラーク、医事コンピュータ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
古川 貴子	講義棟 2F	木・金・土 (授業、会議以外)		授業中に指示します
授業の概要 請求実務演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学習を確認するとともに、①外来及び入院レセプト点検、②支払基金・国保連合会への請求業務の流れ、③さまざまな公費医療制度を中心に学習する。				
授業の到達目標 請求実務のスキルアップを目指し、 ①DPCに必要なICDの知識が身につくようにする。 ②診療科ごとの事例を理解しながら特殊な検査・処置等の理解ができるようにする。 ③医療事務技能審査試験に合格できるようにする。				
授業の方法 演習問題を中心に診療科ごとの特殊な算定の事例を正しくレセプト点検が行えるように学習する。				
学習の成果 ①診療報酬点数表を読みこなす実践力を身につけることができる。 ②各診療科の特徴的な点数算定方法を理解することができる。 ③公費負担の仕組みと医療保険の関係を理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	外来カルテ事例検討 (消化器内科)			
第2回目	入院サマリー事例検討 (消化器内科)			
第3回目	外来カルテ事例検討 (整形外科)			
第4回目	入院サマリー事例検討 (整形外科)			
第5回目	外来カルテ事例検討 (産婦人科)			
第6回目	入院サマリー事例検討 (産婦人科)			

第7回目	外来カルテ事例検討 (眼科)	
第8回目	入院サマリー事例検討 (眼科)	
第9回目	公費医療制度の事例検討 ①	
第10回目	公費医療制度の事例検討 ②	
第11回目	公費医療制度の事例検討 ③	
第12回目	DPCとICDコーディングの理解	
第13回目	請求業務の実際 ①	
第14回目	請求業務の実際 ②	
第15回目	まとめと試験	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	出された課題に集中している。不明な点があれば積極的に質問をしている。
レポート		
調査報告書		
小テスト	20%	授業の進捗に合わせて随時確認テストを行い、理解度に応じて評価する。
中間・学期末試験	60%	学期末試験を実施し、授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
診療報酬早見表・ハンドブック・スタディブック1～3・配布資料・電卓		
履修上の心得・ルール		
専門用語が多くなるので、医療用語・医療英語を再確認すること。 メディカルクラークを受験する場合は必ず履修すること。		